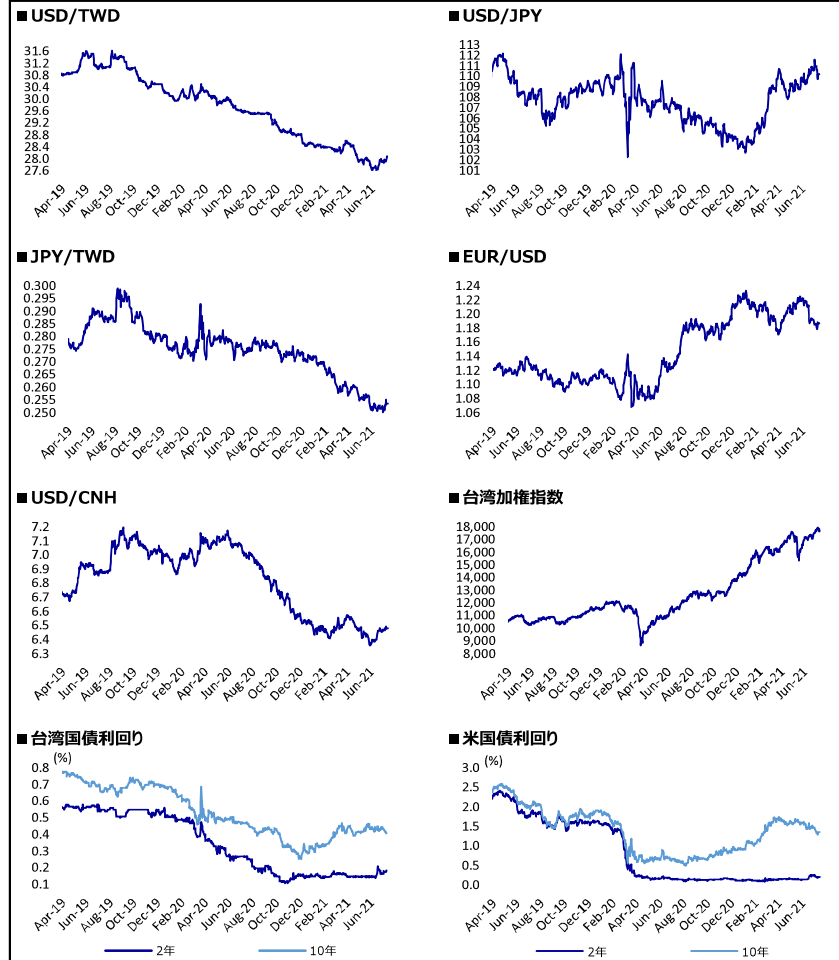


## 市場動向



## 先週の市場動向

**■USD/TWD**  
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初7/5は27.940でオープン後、6月の米雇用統計の結果を受け米株式市場が上昇したことから、台湾株も上昇。つられて台湾ドルも買われ一時27.854をつけたものの、その後は落ち着いた展開に。翌7/6は台湾加権指数が初の18,000ポイント台を付けたが、台湾株の上昇は長続きせず、ドル/台湾ドルは27.90付近のレンジで推移。7/7は台湾株が軟調に推移する中、午後に入ると外資の海外への送金が増加し、27.99台まで上昇。週後半の7/8に入ると、外国人投資家の海外への送金が増えたことやドルが全面的に強含んでいたことから、一時28.071まで上昇。しかし、28台に入ると輸出企業のドル売りも入り、上値を押さえられ28台を割り込んだ。7/9は前日からのリスクオフムードから台湾株が下落すると外国人投資家のリスク回避のドル買いが増え、ドル/台湾ドルはじりじりと上昇し、一時28.088に。最終的には先週比0.3%ドル高台湾ドル安の28.086で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は450.0億台湾ドル。

**■USD/JPY**  
先週のドル/円は下落。週初7/5は110.90でオープン後、前週末の米雇用統計後のドル売りが一服しており111円台前半で推移。その後は米国休場の中、111円を割り込んだものの110円台後半の狭いレンジでの値動きとなった。7/6は110円台後半の狭いレンジで推移していたが、米金利がじりじりと低下すると、つられてドル/円も下落。ISM非製造業景気指数が予想を下回ったこともあり、110円台半ばはまで下落。7/7は米長期金利や欧州株が堅調に推移したことから110円台後半に上昇したものの、FOMC議事録ではサプライズはなく、110円台半ばに戻された。7/8は米長期金利が低下するとドル円も下落すると、ストップロス巻き込みながら110円を割り込んだ。さらに新型コロナウイルスの感染再拡大への懸念から欧米株が軟調に推移するとリスクオフムードが強まり、一時109.54まで下落。7/9は米金利が戻し、米国株も上昇したことからドル/円も110円台前半に戻し、最終的に先週比0.8%ドル安円高の110.14で先週の取引を終了。

## 今週の見通し

**■USD/TWD** 予想レンジ：27.800-28.100  
先週は新型コロナウイルスへの警戒感によるリスクオフの動きから28台に上昇する展開となったが、新型コロナウイルスについては状況は変わっておらず、リスクオフの動きには警戒したい。

**■USD/JPY** 予想レンジ：109.50-111.80  
先週はリスクオフの動きから109円台まで下落したが、今週は米CPI等経済指標の発表が相次ぐ。米国の景気回復がしつかり確認されれば、米金利の上昇と共にドル円もじりじりと上昇するであろう。

## 今週の予定

|            |                                           |
|------------|-------------------------------------------|
| 7/12 (MON) |                                           |
| 7/13 (TUE) | 米6月CPI                                    |
| 7/14 (WED) | 米ページブック                                   |
| 7/15 (THU) | 米7月NY連銀製造業景気指数、米7月フィラデルフィア連銀景気指数、米6月鉱工業生産 |
| 7/16 (FRI) | 日銀金融政策決定会合、米6月小売売上高                       |

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。